

# FUTURE TO-DAY

今日という未来



Yuki Okawa <Growth Ring #1>  
Photo: 宮島 健 Koji Miyajima

大川 友希  
Yuki Okawa

江頭 誠  
Makoto Egashira

小宮 太郎  
Taro Komiya

鶴田 能史  
Takafumi Tsuruta

2023年11月3日(祝・金) →

2024年6月30日(日)

龍宮城ホテル三日月 龍宮亭 5Fギャラリー

〒292-0006 千葉県木更津市北浜1番地(金田海岸)

営業時間: ホテルの営業時間に準ずる  
(但し、2024年1月15日~18日、1月22日、1月23日は休館)

出展作家: 大川友希、江頭誠、小宮太郎、鶴田能史(tenbo) 主催: 株式会社 ホテル三日月  
企画: 上田聖子(MISENOMA)、UDS株式会社

問い合わせ先: [contact@misenoma.com](mailto:contact@misenoma.com)(企画)

## INFORMATION

下記日程で、出展作家・鶴田能史  
による公開制作を行います。

10月30日(月) 15:00 - 17:00

10月31日(火) 10:00 - 17:00

11月1日(水) 10:00 - 17:00

会期中、出展作家・大川友希による  
ワークショップも予定しています。

詳細は追ってインスタグラム  
(@misenoma\_kyoto)等で  
お知らせします。





## 大川 友希

Yuki Okawa

1987年千葉県木更津生まれ。

2012年愛知県立芸術大学/彫刻専攻卒業。古着や布を素材として記憶や時間、思い出の断片を掘り下げ、繋げて、新たなかたちとして再構成し立体作品やインスタレーション作品を制作。

2013年TENGA! GALLERYにて初個展。その後、日本国内を中心に個展や企画展に参加。近年の主な展覧会に奥能登国際芸術祭2020+でのスズ・シアターミュージアムへの参加や瀬戸内国際芸術祭2022に出展。

“花のお江戸と木更津船は今が世盛り花盛り”

『木更津』※きさらび 著;河田陽、松本斗吟 新千葉新聞社版

古書『木更津』にはここで生きたさまざまな人々の暮らしが描かれていた。

私の知らない遙か昔のここで暮らした人々の記憶。

記憶はどこへ行ってしまおうのだろう。行き交うさまざまな人々の暮らし忘れ去られた歴史の中で記述に残らない人々の記憶がこの木更津にも確かにある。

幾度も繁栄と衰退を繰り返すこの木更津という町は、さながら祭と日常を繰り返すかのよう。花のように誇り高く美しく咲いて、朽ち果てた建物にも力強く茂る植物のように、再び目覚める。懐深く時代を受け入れて新たな船出を迎えるこの町を今ここに暮らす人々の記憶やここを訪れた人々の記憶と共に色鮮やかな祝祭となる作品にしたい。



## 小宮 太郎

Taro Komiya

1985年神奈川県川崎市生まれ。滋賀県大津市在住。2016年 京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻(博士)修了。

滋賀県の共同スタジオ「山中suplex」メンバー。人間の“みること”の能動性をテーマに、絵画や写真作品をはじめ、高速回転して残像を見せるオブジェやマスキングテープを使ったトロンプ・リュウのインスタレーション作品など様々なメディアを用いて作品制作を行う。近年では「みる/みえない」を人が意識的に切り替えることで、認知できる領域が変わること、またそれによって変化する事象について興味をもち制作している。

主な展覧会に、2023年「VOCA2023」(上野の森美術館・東京)、2022年 basement #01 五劫のすりきれ(京都文化博物館・京都)、2021年「Soft Territory かかわりのあわい」(滋賀県立近代美術館・滋賀)、「Mind Sights」(MAHO KUBOTA GALLERY・東京)

僕は神奈川県川崎市生まれです。木更津にあるこのホテル三日月さんからは東京湾を挟んで対岸にある場所で、窓からもうっすら見えると思います。ホテル三日月は小さな頃からCMで「ゆったり、たっぷり、の〜んびり」のフレーズが強く記憶にのこっています。親日く、幼少期には何度も潮干狩りに木更津にきたそうで、かつその記憶はあれどそれが木更津だったと分かったのはこの展示のお話を聞いてからの話でした。

今回僕の作品は、そんな木更津と川崎を結び東京湾アクアラインとその歴史からインスピレーションを得て作った作品です。



## 江頭 誠

Makoto Egashira

Photo by Mao Shibata

1986年 三重県四日市市生まれ。東京在住。2011年多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。

戦後の日本で独自に普及してきた花柄の毛布を主な作品素材として、立体作品やインスタレーションを手掛ける。

主な展覧会に「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2019」、「BIWAKOビエンナーレ2022」「六本木アートナイト2023」など。展示以外にアーティストYUKIの「My lovely ghost」のMVやGUCCIのショートフィルム「Kaguya by Gucci」にアートワークで参加。

江頭はかつて実家にあったロココ調の花柄毛布に魅了され、その素材の持つ文脈や自身との繋がりを感じさせる彫刻作品を制作しています。

この作品では、ホテル内に設置されているブロンズ像やぬいぐるみ、観葉植物なども使用されており、ホテルと作品が入れ子のような構造になっています。

美術館の原型とも言われている博物陳列室である「驚異の部屋」を彷彿とさせますが、鑑賞者が作品の中に入りこみ、時間の経過を忘れさせてくれるような体験型の空間です。



## 鶴田 能史

Takafumi Tsuruta

1981年千葉県君津市生まれ。木更津高校卒業後、文化服装学院にてファッションを学ぶ。卒業後コシノヒロコに師事。退社後子ども服のデザインを経験し、昭和学院短期大学の講師、専門学校の講師を経て2015年に独立しテンポデザイン事務所を立ち上げる。年齢、国籍、性別、障がいの有無を問わず平和への願いも込めて発信。東京コレクションで日本で初めて障がい者モデルを起用し国内外から注目される。ハンセン病に対する差別偏見をファッションで無くす発信も続けるなど幅広い分野で発信を続けている。日本ハムファイターズユニフォームデザインや新庄剛志監督・元大関小錦さん・SUGIZO(LUNA SEA/X JAPAN)・サヘルローズさん・はるな愛さんなどの衣装デザインなどを手がけている。無印良品とのSDGsドレスなどコラボレーションなどでも環境と向き合う発信の幅を広げている。2022年、木更津市主催の KISARAZU COLLECTION 2022をプロデュースし地元木更津市を子ども達と共に盛り上げる活動もしている。

「私は幼き頃から父の仕事の関係でホテル三日月に宿泊する事がありました。一年に一度家族友人親戚との大切な思い出。そんな私と同じようにホテル三日月にノスタルジックな思いを抱く方々も多いと思います。三日月で育ち大人になっても三日月にまた泊まりたい。そこには何があるのでしょうか。誰しもが和める世界がそこにあります。こたつを囲むようにみなで三日月を見上げてその扉を開いてください。ファスナーを開く事でサイズの違う半纏をまとう事ができます。同時に8名が着用できます。どんな風に着るんだろう?と会話をしながら楽しんで欲しいです。」

作中で使用されている書は私立拓大紅陵高校の渡辺瀬奈さんを採用。